

社会経済史学会中国四国部会
2020年度大会プログラム（高知大学・高知市）のご案内

2020年10月22日

会員各位

社会経済史学会中国四国部会
大会準備委員会 石畑 匡基
事務局 山本 裕

謹啓

錦秋の候 時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、社会経済史学会中国四国部会は、2020年11月28日（土）、29日（日）に高知大学主催のもと、高知市立自由民権記念館にて、部会大会を開催いたします。二日目の共通論題は高知近代史研究会との共同開催となります。詳細につきましては、同封した大会プログラム等にてご案内しておりますので、ご確認をお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染防止の観点から、今年度の大会はネット配信と対面式のハイブリッド開催となります。会場にお越しいただくことが困難な方におかれましては、ぜひネット配信をご活用いただきますようお願い申し上げます。ネット配信に関する詳細は下記大会「開催方法」をご参照ください。

会員各位におかれましてはご多忙のことと存じますが、活発な部会になりますようご協力いただきたく存じます。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

謹白

記

- 【時間】 第1日 2020年11月28日（土） 13：15～14：15 理事会
14：00 から大会受付開始
14：30～16：45 自由論題報告・総会
- 第2日 11月29日（日） 9：00 から受付開始
9：30～12：30 共通論題

【会場】 高知市立自由民権記念館（高知県高知市棧橋通4丁目14-3）

【懇親会】 予定しておりません。

【開催方法】 ネット配信と対面式のハイブリッド開催となります。ネット配信はZoomを利用する予定です。

オンラインでの参加を予定している会員の皆様におかれましては、事前申請が必要となります。お手数ですが、11月26日（木）までにご所属とお名前をご明記のうえ、下記メールアドレス宛にご送信ください。申請者の方に、事務局よりZoomオンライン配信の入室情報をメールにてご案内いたします。

メールの送信先：香川大学 張曉紅 zhang.xiaohong@kagawa-u.ac.jp

社会経済史学会中国四国部会
2020年度大会プログラム（高知大学・高知市）

1日目：11月28日（土）

- ・理事会（ネット配信と対面式のハイブリッド、会場：大ホール）
- ・自由論題報告（ネット配信と対面式のハイブリッド、会場：大ホール）
- ・総会（対面式のみ、会場：大ホール）

第1報告（14：30～15：10）前田昌義（岡山近代史研究会）

「近代における岡山県酒造業の地域的構成—浅口郡を中心に—」

司会 坂根嘉弘（広島修道大学）

第2報告（15：15～15：55）鳥谷智文（松江工業高等専門学校）

「明治前期における鉄師絲原家の経営動向—明治9年（1876）「議事日誌」
（絲原家文書）を題材にして—」

司会 山本裕（獨協大学）

総会（16：10～17：10）

2日目：11月29日（日）

- ・共通論題（ネット配信と対面式のハイブリッド、会場：大ホール）
- ・中国四国部会高知大会と高知近代史研究会との共同主催

共通論題（9：30～12：30）

テーマ：「海外移住・移民から見た高知（四国）近代史とその史料」

司会 楠瀬慶太（高知工科大学特別研究員）

趣旨説明（9：30～9：40）楠瀬慶太（高知工科大学特別研究員）

① 基調報告（9：40～10：10）座長・吉尾寛（高知大学特任シニアプロフェッサー）

「日治時代の台湾への漁業移住」

② 第1報告（10：10～10：40）石畑匡基（高知県立歴史民俗資料館）

「満州建設勤労奉仕隊と満州開拓団—徳島県隊「アルバム」を事例に—」

休憩（10分）

- ③ 第2報告 (10:50~11:20) 村中大樹 (大阪大学大学院)
「『海外移民』の足跡からみた仁淀川流域の近代史とその史料
—ブラジル行き移民を中心に—」
- ④ コメント (11:20~11:30)
- ⑤ 総合討論 (11:30~12:30)

共通論題の趣旨について

日本人の本格的な海外移住は、明治18(1885)年のハワイ「官約移民」から始まります。その後、移民を斡旋する民間事業者も現れ、移民の数は段々と増加します。

高知県では、明治39(1906)年から移民事業に取り組んだ竹村興右衛門や、同41年の第1回ブラジル移民を担った水野龍などを輩出しました。ブラジルなどの南米への移民は中断と再開を経ながら続けられ、第二次大戦後も多くの日本人を送り出しました。

また、明治28年に日本が日清戦争に勝利すると台湾が公式に日本の領土となると、多くの日本人移住民が送り込まれました。さらに、昭和7(1932)年に満州国が建国されると同地域への移住が国家の政策と位置付けられ、ハワイ「官約移民」を除いて初めて国家が主導して、家族や村単位で移民を送りました。これらにも、高知県を初めとした四国四県からも多くの人々が参加しています。

このように、同じ移民といえども、時代背景や入国先の事情は異なっていました。とはいえ移民・移住は、高知県を初めとした四国の近代史を語るうえで、欠かすことのできない視点だと考えます。今回会場をお借りしている高知市立自由民権記念館においても、ブラジル移民やハワイ移民に関する企画展をたびたび開催されていることから窺えます。しかしながら、移民の実情を語る資料は日本国内には残りづらく、丁寧に探索を続ける必要があるかと思えます。そこで、今回共通論題を「海外移住・移民から見た高知(四国)近代史とその史料」と設定し、高知県を初めとした四国からの移民にまつわる史料を紹介することに主眼を置きたいと思えます。併せて、日本の支配下にある地域への移民・移住という点を重視し、第二次大戦終戦以前に時期を区切りたいと思えます。